

ダイセキを取り巻く外部環境

私たちは、創業当時から今求められていること、そして将来求められることを見極めて事業を展開してきました。VUCA^{*1}な現代にあっても、その姿勢は変わりません。地球環境問題がビジネスにおける重要な課題に変化する中、環境創造企業としてリスクや機会を見極めながら持続可能な社会の実現を目指します。

01 影響のある外部環境因子

政治

Politics

- 世界的なカーボンニュートラルの潮流とサプライチェーン全体の排出量削減要請の厳格化
- 再資源化事業等高度化法の成立などサーキュラーエコノミーに向けた国の政策の推進
- PFAS等の有害化学物質管理の厳格化や水質・土壌汚染対策に関する環境法規制の強化

経済

Economy

- 主要なリサイクル先であるセメント業界をはじめとする国内厚長大産業の構造的な需要低迷
- 地政学リスクを背景とした資源・エネルギー価格の高騰及び国内製造業の工場統廃合の進行
- 円安や地政学リスクの高まりに伴うサプライチェーンの再構築と製造業の国内回帰の動き
- 企業による再生材利用目標の設定

社会

Society

- サーキュラーエコノミーへの移行加速に伴う製造業による廃棄物削減や自社内処理の進展
- 国内の生産年齢人口の減少に起因する人手不足及び物流の「2024年問題」の顕在化

技術

Technology

- バイオ技術(微生物利用)や新素材(金属有機構造体: MOF^{**2}等)を活用した新たな資源分離・回収・再利用技術の台頭
- AI・IoT・ロボティクスなどのデジタル技術(DX)によるサプライチェーン及び工場オペレーションの自動化・効率化の進展

外部環境キーワード

- ◎ 製造業における廃棄物削減
- ◎ サーキュラーエコノミー
- ◎ カーボンニュートラル

02 想定リスク

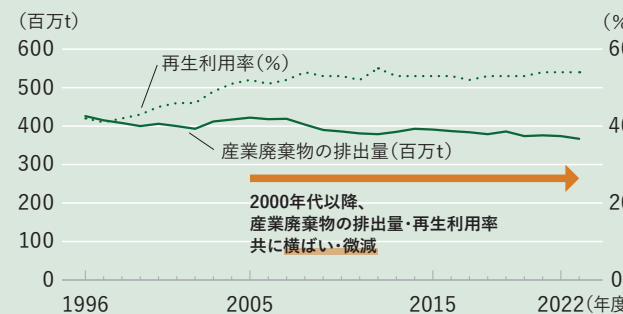
主要なリサイクル製品の販売先であるセメント工場等の統廃合や需要縮小に伴う既存のリサイクルスキームの停滞・崩壊リスク

顧客企業における廃棄物の発生抑制や自社内処理の進展による需要減

燃料費・電力費や外注運賃をはじめとする物価高騰が長引くことによる利益率の圧迫

産業廃棄物の排出量と再生利用率の推移

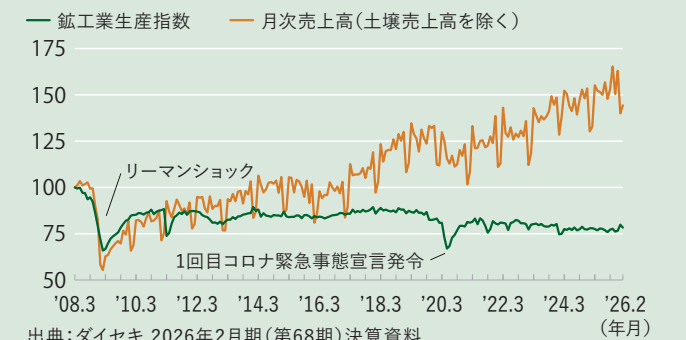
国内の製造業縮小や環境意識の高まりにより産業廃棄物量は横ばい〜微減の傾向が続く見込みです。産業廃棄物の再生利用率も近年横ばいで処理難度が高まっています。



鉱工業生産指数と売上高の推移

ダイセキの顧客基盤である製造業の生産状況を示す鉱工業生産指数は低下傾向にあります。

*補足: グラフではそれぞれの2008年3月の数値を100として表示



03 機会と対応策

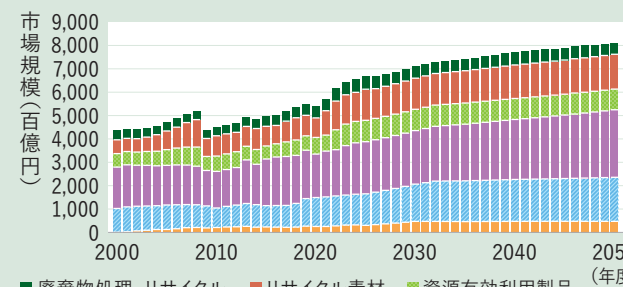
製造業の顧客に対する製品設計段階から資源循環を包括的に支援するコンサルティング需要の高まり

サーキュラーエコノミーに向けた国の政策の推進及び企業による再生材利用目標の設定

顧客企業のScope3削減の需要に応える産廃処理サービスの提供

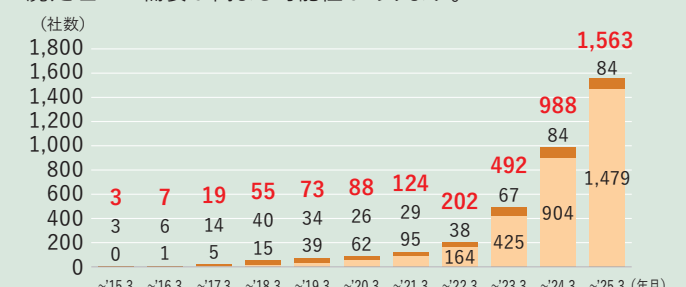
市場規模

廃棄物処理・資源有効利用分野全体の市場規模は、2050年に向けて増大していくことが想定されます。



日本のSBT参加企業

Scope3排出量削減目標を設定するSBT認定取得企業数が増加しています。ダイセキの提供するCO₂排出量の少ない産廃処理への需要が高まる可能性があります。



04 重点取組

10年後、20年後の外部環境の変化を見据えた経営戦略の見直し

事業譲受で獲得したMOFの新技术やグループ内外の連携により企業のモノづくりを支える「課題解決型企業」を目指す

外部環境が激変する中で、当社は10年、20年先を見据えた社会ニーズを的確に捉え、事業・人財・財務の各経営戦略を絶えず進化させていきます。ダイセキグループ各社の連携を強化することで、顧客ニーズの深掘りと、より幅広い解決策の提案を実現します。ダイセキグループに不足する技術や機能については、外部との連携やM&Aを活用し、企業のモノづくりを多面的に支える「課題解決型企業」へと成長し続けます。

^{*}1 VUCA:「Volatility(変動性)、Uncertainty(不確実性)、Complexity(複雑性)、Ambiguity(曖昧性)」の頭文字を取った造語で、予測困難な状況を表す
^{*}2 MOF: 金属イオンと有機分子の配位結合によって形成される多孔性材料で、気体等を選択的に吸着・分離できる次世代素材